

愛教大准教授 リモート講義

大府東高

顕微鏡観察を通して微生物と細胞の仕組みを学ぶ遠隔授業が大府市横根町の大府東高校であり、理系の二年生十人が受講した。

愛知教育大の上野裕則准教授が自分の実験室からオンラインで講義。微生物や細胞の繊毛やべん毛を研究することで不妊症や物忘れなどの治療に役立つ可能性を説明した。その後、生徒

たちはホルボックス、テトラヒメナ、ゾウリムシなどを



遠隔授業で微生物の顕微鏡観察をする生徒たち―大府東高で

の微生物を顕微鏡で観察し、スケッチをした。河瀬拓未さんは「テトラヒメナを初めて見た。べん毛の動きで病気や体のつくりが変わることを初めて知った」と話していた。

同校は昨年度まで県の「あいちSTEMハイスクール」研究指定校として、理科教育の工夫を実践してきた。担当の杉山久美子教諭は県の若手教職員等奨励賞を受賞。本年度も杉山教諭が人脈と知見を生かして、専門的な理科教育を組み立てている。